あなたと博物館

松本市立博物館ニュース　No.231　2020.11.1

開催中

収蔵資料大公開展

松本市立博物館（本館）は本年度をもって一時閉館し、2023 年度秋、リニューアルオープンします。現在、閉館前最後の企画展として、収蔵資料を 5 期に分け紹介する「収蔵資料大公開展」を開催中です。第 3 期となる展示「生活と色」では、人々の暮らしに関わる色・かたち豊かな資料を、第 4 期となる「博物館の逸品Ⅱ」では重要有形民俗文化財に指定されている民間信仰資料コレクションを紹介します。

114 年の歳月をかけ収集した多様なコレクションをどうぞお楽しみください。

「生活と色～暮らしを彩る意匠～」

■会　期：2020年10月17日㈯ ▶ 11月29日㈰
■休館日：会期中無休

「博物館の逸品Ⅱ～民間信仰資料コレクション～」

■会　期：2020年12月12日㈯ ▶ 2021年1月11日㈷
■休館日：2020年12月29日㈫ ▶ 2021年1月 3日㈰

（写真は全て「生活と色」展示資料）

もくじ

誌上博物館 ◇ 企画展「今昔青春群像」……2
博物館のノートから ◇ 浅井洌が見た信濃の国　～明治25年『第六修学旅行概況』から～……3
博物館TOPICS ◇ 歴史の里建築講座パネル展「松本のたてもの2014～2019　～おさらい展～」……4
ガイドコーナー ◇ はんてんぼく……4

旧制高等学校記念館 Tel.0263-35-6226

企画展「今昔青春群像」

旧制高等学校記念館では、企画展「今昔青春群像」を8月中旬から9月の末まで開催しました。本来は東京オリンピックの開催に合わせて「旧制高等学校スポーツ展」を行う予定でしたが、オリンピックの延期に伴い、企画展も来年に延期となりました。これに代わって開催したのが企画展「今昔青春群像」です。

今回の展示は旧制高等学校記念館に収蔵されている当時の松本高等学校生（以下、「松高生」とする）たちが撮影した写真(昭和初期から20年頃までの写真)と同じ場所を探し、なるべく同じアングルで撮影した現在の風景を比べるというものです。過去の街並みは現在の街並みとはまったく違っています。撮影にあたって、苦労したのは場所の特定でした。昔の地図や、写真に写る看板などをたよりに場所を照合し、松高生の手記に記された店舗などを探していきました。意外と役立ったのは山でした。山の形は当時とまったく変わっていないので、背景に写る山をたよりに松本駅から美ヶ原の王ヶ鼻（おうがはな）まで写真を撮りにいきました。その結果、校内を含む12ヵ所で写真を撮ることができました。

昭和3年頃(1928頃)浅間温泉

現在(2020)の浅間温泉

蛇足ですが、王ヶ鼻に向かったつもりが王ヶ頭（おうがとう）に到着してしまったり、やっとの思いで浅間温泉を一望する写真と同じ場所を見つけたと思いきや、90年が経過していたため木が生茂り、何も見えなくなっているというようなアクシデントもありました。

ここで、実際に企画展で使用した画像を用い過去と現在を比べてみます。まずは、昭和23年頃の縄手通りの写真です。松高生にとって女鳥羽川沿いの縄手通りは盛り場の中心でした。彼らは街への散策を「縄手へのす」と称し、書店、映画館、飲食店めぐりを楽しんでいたそうです。奥に見える建物は昭和34年に丸の内に移転するまで使用されていた旧松本市庁舎です。私は当時の市庁舎がそのまま残っているものだと勘違いをしていましたが、旧庁舎を解体後に保険会社のビルが建設され、現在はそのビルが旧市庁舎をイメージした市営住宅になっています。実際に比べてみると外観や階数など異なるものの、当時の面影を感じさせます。

昭和23年頃(1948頃)縄手通り

現在(2020)の縄手通り

次は、昭和10年頃の松本駅前通りをまたもや松高生たちが堂々と横並びで闊歩している写真です。

昭和10年頃(1935頃)駅前大通り

現在(2020)の駅前大通り

あがたの森公園に向かう駅前の大通りには、当時、路面電車（チンチン電車）が走っていました。そのため、この道を現在でも電車通りと呼ぶ人も少なくありません。秀峰学校前交差点付近には かつて「学校前停留所」（旧制松高があったため）があり、そこから電車は北に折れ、浅間温泉へと向かっていきました。

今回の展示は現在の写真の彩度を強くしてモノクロ写真と現在の写真の対比を強調しました。さらに展示では写真の比較だけではなく、当時松高の寮「思誠寮（しせいりょう）」で使用されていた実物の太鼓と当時の写真を比較するこころみをしました。企画展は閉幕となりましたが、より多くの方に展示をご覧いただき旧制高等学校への興味を深めていただきたいとの思いから、当館のホームページ上に企画展「今昔青春群像」を公開しましたのでぜひご覧ください。右記のQRコードからホームページにアクセスすることができます。

（旧制高等学校記念館　学芸員 / 髙山峻一）

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

浅井洌が見た信濃の国
～明治25年『第六修学旅行概況』から～

1　はじめに

浅井洌は、長野県歌「信濃の国」の作詞者で、長く長野県尋常師範学校（現・信州大学教育学部）で教員養成にあたった人物です。

私は特別展「信濃の国と浅井洌」（2018）を担当して以降洌について調査しており、現在は洌が記した『第六修学旅行概況』をもとに、長野県に範囲を絞って彼が歩いたルートを巡っています。

2　『第六修学旅行概況』について

『第六修学旅行概況』は、洌が、長野県尋常師範学校在職時に行われた明治25年（1892）の修学旅行の内容について、書き記しまとめたものです（以下、『概況』とする）。行先は、長野県南部・岐阜県・愛知県・静岡県で、行程は約800km、日数19日、人数は教員・生徒・人足等合わせて104人、交通手段は基本徒歩で実施され、心身の鍛錬や見聞を広めることが目的だったようです。

『概況』には、その時の様子（天気や道の状況等）のほか、修学旅行中に、洌が実際に訪れ見た各県の名勝・旧跡の所感や解説が記されています。

3　和田峠の石碑

『概況』によると明治25年7月30日、前日に師範学校を出発し中山道和田宿に投宿していた洌たちは、和田峠を越え下諏訪へと向かいました。峠の頂から下諏訪へと下っていく道中で、1つの石碑が洌の目にとまります。それは、和田峠付近一帯で繰り広げられた合戦による戦没者を祀ったものでした。この合戦は、元治元年（1864）11月20日に、上京を目指す水戸藩浪士たちと、それを食い止めるために出兵した松本・高島藩連合軍が、和田峠付近一帯で衝突した戦いを指します。石碑は合戦後、高島藩によって塚が造られ戦没者たちが祀（まつ）られた際に、たてられました。そこには、合戦で亡くなった水戸藩浪士6人の名が刻まれており、洌は『概況』にその氏名や合戦の経過等を記しています。

現在、石碑の前を国道142号が通り、自動車では見つけづらくなっています。ただ、一行も通ったと考えられる旧道（中山道）を実際に歩きながら探してみると、洌が『概況』で言及しているように「道右傍少し高き所」に石碑があることが分かります。石碑の文字は摩耗や汚れで見にくい部分もありますが、洌が『概況』に残してくれているので読むことができました。

洌の鎮魂歌「和田山の／露と消えても／石文に／動きなき名を／止（とど）めつるかな」が表しているように、ひっそりとではありますが、長野県における幕末の動乱を150年以上伝え続けている、そんな石碑でした。

和田峠の石碑

石碑付近から見た旧道（中山道）

また、今回の体験を通じて、普段であれば通り過ぎてしまうような場所に目を向けられ、解読しにくい文字を丁寧に読めるなど、『概況』片手にルートを巡る面白さを感じることもできました。

修学旅行の一行はこの後、上諏訪に投宿し、翌日高遠（たかとお）へと向かいます。洌は、高遠城址や城下町の構造を中心に、高遠に関する詳細な情報を『概況』に残しています。

4　今後について

つい先日、私は高遠に行きました。『概況』を手に城下中心を歩いてみると、洌の所感や解説があるからこそ見えてくるものがありました。例えば、『概況』中には城下付近に架けられた橋の名前の由来が記されていますが、実際に訪れてみると案内板等で解説があるわけではなく、当たり前のようにそこに橋があるだけです。洌の言葉が無ければおそらく見過ごしてしまうでしょう。

今後は、高遠での体験についてまとめ、引き続き洌が歩いたルートを巡っていきたいと思います。その中で、考えたことや面白いと思ったこと、わずかながらでも長野県地域の歴史を再発見するようなことがあれば、誌面で報告していきます。

（松本市立博物館　学芸員／伊藤雄太）

博物館 TOPICS

松本市歴史の里 Tel.0263-47-4515

歴史の里建築講座パネル展「松本のたてもの2014～2019　～おさらい展～」

「歴史の里建築講座」は、地元で活躍する建築士の方々と協働で、松本の伝統的な建物を紹介するパネル展示、展示説明会、講演会、現地見学会を中心に進める講座です。平成26年（2014）に第1回となる講座が始まって以降、毎年、様々な種類の建築に焦点を当ててきました。

今年度は、昨年の旧開智学校校舎の国宝指定に関連し、「擬洋風建築」をテーマに講座を開催する予定でした。しかし、新型コロナウイルスの影響を受け、一連の事業を全て例年通りに開催することは困難であると判断し、「擬洋風建築」をテーマにした講座は来年度に延期することとなりました。

延期となった「擬洋風建築」に代わり、平成26年度から令和元年度までの間に開催した計6回の講座で取り上げてきた全てのテーマをパネルで振り返る、歴史の里建築講座パネル展「松本のたてもの2014～2019　～おさらい展～」を開催します。

本講座でこれまで取り上げてきたテーマは、第1回から順に、「歴史の里の建築」、「民家建築」、「たてもので巡る松本の街道」、「松本の近代和風建築」、「松本の“くら”」、「松本の近代遺産」です。一口に“伝統的な建築”と言っても多種多様な種類の建築を紹介してきたことがお分かりいただけると思います。

私たちの身の回りにあり普段何気なく目にしている建物は、それが伝統的な特徴を持つ建物であっても、日常風景の中に溶け込んでしまい、見過ごしがちではないでしょうか。建築講座を開催する目的の一つは、そういった普段なかなか意識しにくい文化財（建造物）を改めて紹介することです。

今回、一連のテーマを振り返ることで、再度、身の回りにある様々な建築を見直すきっかけになれば幸いです。

（松本市歴史の里　学芸員／八木瑞希）

歴史の里建築講座パネル展
「松本のたてもの2014～2019　～おさらい展～」

[会　期] 10月27日㊋～12月27日㊐
[会　場] 松本市歴史の里（重要文化財　旧松本区裁判所庁舎）
[料　金] 通常観覧料（大人410円、中学生以下無料）

ガイドコーナー はんてんぼく

※申込み・問合せは各館へお電話ください

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

令和2年度企画展「ふるさと松本をうたう」

会　期　9月12日(土)～11月23日(月祝)
　　月曜休館(祝休日の場合は次の平日)
会　場　窪田空穂記念館　会議室
料　金　通常観覧料(大人310円、中学生以下無料)

はかり資料館から ☎0263-36-1191

企画展「今昔はかり展」

はかる道具のひとつとして、昔から生活の中で使われてきた「ノギス」を展示し、その歴史を紹介します。

会　期　10月27日(火)～12月27日(日)
会　場　はかり資料館
料　金　通常観覧料(大人200円、中学生以下無料)

旧山辺学校校舎から ☎0263-32-7602

第1回探古会(古文書読解講座)

「江戸時代の流行病コロリ対策－安政五年百瀬知行所陣屋日記を読む－」

日　時　11月23日(月祝)午前9時～正午
会　場　松本市教育文化センター2階　206会議室
料　金　500円(テキスト代として)
定　員　30人(要予約・先着順)
講　師　青木教司氏/元松本城管理事務所研究専門員・現NHK文化講座講師
申込み　11月6日(金)午前9時から電話で旧山辺学校校舎へ

しめ縄作り教室

日　時　12月6日(日)午前9時～正午
会　場　松本市教育文化センター2階　206会議室
料　金　無料
定　員　25人(要予約・先着順)
講　師　荒田直氏、ほか4人
申込み　11月21日(土)午前9時から電話で旧山辺学校校舎へ

松本民芸館から ☎0263-33-1569

企画展「冬のいろどり　玩具人形展」

家の繁栄や無病息災、子どもの健やかな成長などを願う人々の心が感じられる国内外の玩具人形展です。

会　期　11月25日(水)～令和3年3月14日(日)
　　月曜休館(祝休日の場合は次の平日)
　　12月29日～1月3日は休館
会　場　松本民芸館
料　金　通常入館料

重文馬場家住宅から ☎0263-85-5070

松本の御柱展

松本地方に正月の風習として残る「御柱」の行事を紹介します。

会　期　12月5日(土)～令和3年2月7日(日)
会　場　重要文化財馬場家住宅
料　金　通常入館料(大人310円、団体200円(20名以上)、中学生以下及び松本市在住の70才以上は無料)

掲載されている各種事業は、新型コロナウイルスの感染状況によって急遽中止となる場合もございます。開催の可否等については、各館にお問い合わせください。

あとがき

今年の夏は「いつもと違う○○」という言葉が各種メディアを賑わせていました。「当たり前」のことができないことで、気持ちが悲観的になってしまいがちです。しかし、困難な状況だからこそ感じる楽しみや、気づきがあるはずです。博物館がそんな心に潤いを与えることができる場所でありたいと感じています。（K.I）

あなたと博物館 No.231
発行年月日/令和2年11月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL：http://www.matsu-haku.com/
e-mail：mcmuse@city.matsumoto.lg.jp
印刷 川越印刷株式会社